



東京八王子プロバスクラブ

創立 1995 年 10 月 18 日

プロバスだより

第180号

<http://www.tokyo-hachioji-probusclub.jp>

2010年11月11日発行

編集・発行：情報委員会

POSITIVE AGING

2010～11年度テーマ 「遊び心・学ぶ心・奉仕の心」で、クラブは今年も進化します

第180回例会

日 時：平成 22 年 10 月 14 日(木) 12:30～13:45

場 所：八王子エルシィ

出席者：59 名 出席率 87%

(会員総数 68 名、休会 0 名)

1. 開会 司会 東山例会委員長

本例会は、第 180 回（年 12 回×15 年）の記念の会であります。例会後 15 周年記念行事実行委員会が運営説明会を行います。

2. 会食

ハッピーコイン披露・バースデー報告

杉山会長から、ハッピーコインの披露（詳細：2～3 頁 29 件）に引き続き、10 月のバースデー報告がなされました。今月は、高瀬謙輔、土井俊玄、戸田弘文、岡本宝蔵、大野幸二、荒正勝、立川富美代、矢島一雄、古川純香（写真向かって左から；欠席・小林貞男）の 10 名の会員に、池田ときえ会員手作りの美しいバースデーカード（2 期目の新デザイン）が会長より贈られました。



3. 会長挨拶 杉山友一会長



初めに、10 月 5 日当クラブの廣瀬智子会員が、長年の人権擁護委員としての活動に対し、法務大臣より表彰を受けられました。おめでとうございます。

次は 15 周年記念事業関連です。

10 月 12 日に、立川会員を中心にして約 40 名の会員が市民会館に集まり、詳細な現場打ち合わせを実

行しました。本番での会員各位のご協力をよろしくお願い致します。

4. 幹事報告 澤渡進幹事



①三田孝子さんは、10 月 7 日付で一身上の都合により本会を退会されました。

②幹事アンケート；7 月に行ったアンケートは 34 名もの方に回答を頂きました。前向きかつ建設的な回答が多く、ご指摘いただいた課題や提案に対してどう答えて行くかが今後重要と考えています。

③11 月の例会；移動例会として、「夕やけ小やけふれあいの里」で行います。例会後に会員間のコミュニケーションを図るために懇談会・懇親会を設けることにしています。現在出席予定は 50 名ですが、更なる参加増を期待しています。

④いちょう祭り；例年受身の参加形態でしたが、今年は積極参加の方向へ切り替えて行きたいと考えています。具体的には 11 月例会で各委員会を通して、多くの方に参加をお願いする予定です。

⑤15 周年記念関連；式典で永年在籍者表彰を行います。該当者は「プロバスだより」179 号記載の 23 名の方で、当日は前の方に着席頂き、会長より顕彰していただきます。

5. 委員会報告

(1)例会委員会 東山委員長



出席者 59 名、欠席 9 名で出席率 87%。会員総数は退会者 1 名分減少し 68 名。

(2)情報委員会 吉田委員長

「プロバスだより第 179 号」をお届けします。前号からの



変更点は、先ずページの中央に縦線を入れたこと、次には見出しの活字をMS明朝体からMSゴシック体に変えたことであり、より見易くしました。読まれる「プロバスだより」を目指しており、皆様からの投稿をお待ちしています。

(3) 会員委員会 川村委員長

特になし。

(4) 研修委員会 土井(俊玄)委員長



・11月11日の野外研修会；例会後に談論風発会として行う予定であり、現在50名の参加見込み。本日配布した「11月11日の談論風発会の進め方について」をよく見ておいて下さい。

・会員の知識・経験調査表；本日が提出日ですが、現在の提出状況は23名どまりです。全会員の提出を期待していますのでよろしく。

(5) 地域奉仕委員会 下田委員長

配布資料「第15回生涯学習サロンカリキュラムと日程(案)」をご覧ください。開講式特別講話の松平定知氏(テーマ未定)と閉講式特別講話の中山二基子氏は決定です。

(6) 交流担当 山崎理事

特になし

6. 同好会活動報告

(1) お茶の会；11月の予定を10月26日に打ち合わせます。

(2) ゴルフ同好会；9月は雨で中止。次回は11月18日(木)にGMGゴルフクラブで開催します。10月30日まで多くの方の参加をお待ちします。

(3) 歴史の会；第19回を11月30日に開催します。テーマは秩父方面を予定しております。11月例会で詳細を説明の上参加者を募集します。

(4) 囲碁の会；11月5日、熱海にて1泊囲碁大会を開催します。

(5) 麻雀クラブ；第11回目の会を10月19日1時からピオラで行います。

7. その他報告

①12月2日いちょうホールで開催される「山下洋輔ジャズのタベ」のチラシのコピー(配布資料)をご覧ください。女性のライオンズクラブとも言われる八王子東京パイロットクラブからの依頼

で皆様に御紹介します。世界の山下洋輔をこの機会に楽しんでください。 塩沢会員

②お願いがあります。情報委員会では例会中に発言者の顔写真を撮っています。発言者は時々顔を上げて笑顔を見せてください。 八木会員

8. プロバスソング斉唱

9. 閉会の挨拶

佐々木研吾副会長



廣瀬会員、大変おめでとうございます。近藤会員の復帰も喜ばしいことです。昨日来のチリの落盤事故の救助成功ニュースには、心洗われる思いがします。命の大切さを痛感させられますが、我々もこれからの余生を明るく楽しく過ごしましょう。15周年行事の成功を祈ります。



◆10月5日法務省に於いて法務大臣より表彰状を戴きました。人権擁護委員として有りがたいことです。式後皇居参観がありました。

2 コイン 廣瀬智子

◆高校の先輩(鈴木 章先生)がノーベル賞受賞。

2 コイン 山崎修司

◆来月都合で例会に出席出来ませんので、今月誕生日のハッピーコインを申告します。よく此处まで生かされて来たと感謝の気持一杯です。

近藤泰雲

◆プロバス15周年記念事業と同じ日に八王子市煎茶道連盟、東阿部流白映会会長として一日席主をつとめさせていただきます。 阿部治子

◆娘と孫が、マリンバの演奏発表会で、ほめられたとか。おじいちゃんの慶び。 下山邦夫

◆11月の研修は欠席させていただきますのでハッピーコインを1口です。 熊田眞瑜美

◆私の住む住宅地の中に墓地建設計画がもち上がり、市議会に反対の請願をしておりますが、八王子市民の1%に及ぶ署名を頂くことができました。ご協力、ご支援に感謝して。 市川昌平

◆15周年実行委員のみなさまごろうさまでした 2 コイン 大野聖二

◆10月12日、52回目の結婚記念日を迎えました。

幸せです。

竹内賢治

◆「プロバスだより」の編集を担当。大変だけど、
得る事も多く、ぼける暇なし。感謝。

吉田信夫

◆15周年記念行事の成功を祈る。 宮崎浩平

◆チリ落盤事故救出のグッドニュースに感激。
チ・チ・チ・レ・レ・レ・ビバチリ（チリ万歳の
意）

野口浩平

◆孫が所属している高校の合唱部が、この度（11
日）NHK 全国学校コンクールで NHK ホールに
集い、見事銀賞を戴きました。

高取和郎

◆15周年おめでとう。

浅川文夫

◆15周年のつどいの日が来ました。お友達が、
ご夫妻で楽しみにいらっしゃるとの事、ご期待に
添える事を祈っています。

阿部幸子

◆76才の誕生日。先ず健康に感謝

大野幸二

◆中2の孫娘が、ピアノ教室の発表会で、トリを
務め、ベートーベンのソナタ 20 番第 1 楽章を熱
演しました。

佐々木研吾

◆長女が満 50 歳に達し、勤務先の外資系コンピ
ュータメーカーで、永年勤続表彰を受けました。
私自身が 50 歳を超えたのが、ついこの間のよう
な気がしますのに……。歳をとるわけです。

佐々木研吾

◆9月14日、大雪山でクジャク蝶を撮影しまし
た。猛暑が継続したお蔭です！

10月2枚目のバースデイカードがいただけます。

感謝

6 コイン 荒 正勝

◆先月（9月）の麻雀大会は、第 10 回となる節
目の大会でしたが、参加人員が 9 名と少なかった
ことと、ツキという幸運に恵まれ優勝させてい
ただきました。楽しい中国語講座に参加させてい
だき、麻雀仲間の皆様に感謝しております。

2 コイン 高瀬謙輔

◆先月は麻雀大会でのツキは良かったのですが、
玉ツキという玉ツキ事故にも遭ってしまいました。
しかし両親が 66 年前の 10 月に丈夫な子に
産んでくれたことから大事に至ることはありません
でした。今は亡き両親に感謝の毎日です。

2 コイン 高瀬謙輔

◆全国プロバスケットボール総会に参加して：旭川プロ

バスケットボールの多くの方々にお世話になりました。
大変、有意義な 3 日間を過ごしました。各クラブ
の発展をいのりつつ！！ ありがとう。

宮城安子

◆北海道の総会は大成功に終わりました。杉山会
長のクラブ報告の立派なこと、又沢山の会員のご
参加頂いたこと、全日本担当として鼻の高い思い
でした。有難うございました。

2 コイン 立川富美代

◆「身体髪膚これを父母に受く」を信条に生きて
きましたが、平成 16 年、遂に下・右・第 1 小臼
歯が抜けました。「声楽家たるもの、歯の治療は
慎重に」と教えられた藤原義江先生の言葉を念頭
に、差し歯、ブリッジ、インプラントと迷い、良
き歯科医を探し 6 年経ちました。この程、遂にめ
ぐりあい、決めました。その先生は、61 年前、
私の父と共に殉国死されたハルピン特務機関長
第一補佐官の孫御なのです。人智の計り知れぬ
「運命の絆」を心底驚きつつ、治療の終了と新たな
発声発音器官を得て、勇躍歌える日を待ちわびて
いる昨今です。長舌を駄し失礼しました。

山形忠顯

◆誕生日です。ありがとうございます

戸田弘文

◆夏の猛暑が去り、秋を感じるこの頃。ここで一
句“子ら去るや 澄みし旋律 虫時雨”。秋はち
よっと寂しい季節でもあります。

澤渡 進

◆祝おう！ 感謝しよう！ 楽しもう！

八王子プロバス創立 15 周年。

澤渡 進

◆子ども達を対象にした P1（プラスワン）プロ
ジェクト発足を祝って、メンバー全員で献納
2,000 円也。実は飲み会の残金です。

4 コイン プラスワンプロジェクト実行委員会

◆いよいよ 15 周年記念事業が 3 日後となりました。
どうか宜しくお願い申し上げます。

2 コイン 杉山友一



例会会場

付記:15 周年記念行事運営説明会

澤渡幹事の司会により進行。

(1)宮崎実行委員長の挨拶



創立記念行事も 2 日後に迫ってきました。参加者募集には万全を期し、直前施策として 14 日の「ショッパー」誌上に P R 記事を載せました。また会長の手配によって、10 月 5 日の読売新聞都下版に関連記事が掲載され、八王子テレメディアでは今週一杯繰り返し案内を放映していただいています。会員各位にも更なる集客努力をお願いし、15 周年記念行事を是非とも成功させたいと思います。

(2)立川会員（会館イベント事業担当）



9 月 18 日にチーフ、10 月 12 日には担当全員を市民会館に集め手順の確認、リハーサルを行いました。現在参加申し込みは約 700 名です。

(3)澤渡会員（記念式典担当）

記念式典とパーティは八王子エルシイで行います。90 名のゲストを加え計 150 名の見込みです。当日は「お客様への感謝とおもてなしの心」を忘れないで頂きたい。

(4)引き続き、会館担当グループと式典担当グループに分かれ、当日の工程及び手順・担当者の確認作業を行った。

プロバスクラブ創立15周年記念事業

“宇宙への未来の夢と努力と”

— 21世紀の青少年に贈るメッセージ —

東京八王子プロバスクラブ 15 周年記念行事「講演と視覚障がい者音楽家によるコンサート」が 2010 年（平成 22 年）10 月 17 日（日）、八王子市民会館にて催されました。会場には、700 人を超



える人が集い、特に、未来に向けたメッセージの対象となる小中学校の子供たちも加わり、会場は熱気に包まれました。

杉山会長、宮崎実行委員長の挨拶の後、黒須市

長の祝辞があり、催しの幕が開けられました。

第1部 講演 宇宙の学校

宇宙と友達になろう

—いのちの大切さと家族の絆—

講師 的川 泰宣先生

（まどがわ やすのり）

J A X A 宇宙航空研究開発
機構 技術参与・名誉教授

NP0 法人子ども・宇宙・未来の会会長



的川先生は、子供達に「宇宙と友達になろう」と呼びかけられ、惑星探査衛星「はやぶさ」の話をしてくださいました。

「はやぶさ」は惑星探査を目的に開発されました。2003（平成 15）年 5 月 9 日に打ち上げられ、小惑星「イトカワ」に到着、7 年の歳月をかけて地球に帰還しました。月以外の惑星に行って戻ってくるという行動は、世界初の快挙です。

しかし、順調に事が進んだわけではありません。途中燃料漏れを起こし、姿勢制御が出来なくなる等の障害が起きました。イオン化して使用するキセノン燃料を生噴射するなどして、エンジンは一部回復したのですが、今度は通信障害を起こしました。

「イトカワ」は地球から、3 億キロメートルと、太陽までの約 2 倍の距離があり、地球から送った通信が「はやぶさ」に届くのに、16 分、往復 32 分かかる。しかも「はやぶさ」からの返信は、「YES」か「NO」の 1 ビット情報なので、情報の交換には非常に時間がかかる。通信が途絶えたので地球からは必死になって追跡し、2 か月経たぬうちに、通信が戻ってきた。また 4 基あるエンジンも痛み、最後は残った 2 基のエンジンのバックアップ回路を組換え、1 基のエンジンとして働かせるなどの工夫もしました。このように、大変な危機を経て、2010（平成 22 年）6 月 13 日地球に帰還しました。現在、カプセル内の物質が惑星「イトカワ」のものか分析中です。

最後に、「幼い時の共感と感動が未来をつくる。一番大事な時期は、小学 5 年生の頃です。この時期が命を輝かせるセンス



を身につける一番の変換期です」との貴重な言葉
でお話を締めくくられました。

第2部 君に届けたい愛のコンサート

立川富美代会員司会
のもと、視覚障がい者音
楽家によるコンサート
が進行しました。



掛屋剛志くんを迎えて

掛屋剛志さんがピアノとダンボール・パーカッシ
ョンを演奏、その清純な歌声が会場を魅了しまし
た。 曲は、赤とんぼ、荒城の月、アメージング・
グレイス等でした。

勝田友彰と仲間たち

ヴォーカル : 勝田友彰、光野孝子、安保弘介

ヴァイオリン: 穴澤雄介

フルート : 綱川泰典

ピアノ : 安保万美

プログラムは、歌えバンバン、日本の童謡から

(海、めだかの学校、

シャボン玉)、

ヴェロス、塞馬(さいま)、

千の風になって、

君をのせて(天空の城ラピュタ)、 星に願いを、
等でした。



最後に、子供たち(ガールスカウト東京都第
26 団)が入場、会場の全員と一緒に「手のひら
に太陽を」を合唱しました。



知的障がいと視覚障がいをもつ掛屋剛志君の
清純な歌声と視覚障がいをもつ穴澤雄介、綱川泰
典のお二人の素晴らしい演奏に、聴衆の方々は感
動をもって会場を後にされたようです。

クラブ創立 15 周年

《記念式典・レセプションパーティ》

八王子市民会館での記
念の催しに続いて、夕刻よ
り、八王子エルシにて、
クラブ創立 15 周年記念式
典並びにレセプションパ



ーティが開催されました。

記念式典

司会 幹事 澤渡 進

開会挨拶 初代・10 代

会長 大野 聖二

会長挨拶 杉山 友一

来賓ご挨拶

・八王子市教育委員会

教育長 石川 和昭様

・全日本プロバス協議会

会長 金森 正夫様

・東京八王子

南ロータリークラブ

会長 堀上 則夫様

物故者に黙祷(19 名)

宮崎 浩平

15 周年の歩み

実行委員会委員長

宮崎 浩平

永年在籍者顕彰

会長

杉山 友一

プロバス在籍 10 年以上在籍者 23 名顕彰

閉会挨拶

副会長

佐々木研吾



レセプションパーティ

“楽しいミュージカルの世界へ”

司会・立川富美代会員のもと、田中三佐代さん
とシニアダンディーズによるミュージカルソ
ングメロディーが披露されました。



*サウンドオブミュージック から

*マイ・フェアレディ から

この後、東京八王子南 RC のプロバス会員で
プロバス設立に尽力された酢屋善元様の挨拶・乾杯
で、食事と懇談に入りました。最後に、この 15
周年記念事業の催し開催に中心となって活動さ
れた立川富美代会員に、プロバス学習サロン会員
の土井光子様より花束贈呈がありました。矢島一
雄会員の閉会の言葉の後、シルバーダンディーズ
の「さよなら」の歌で、今日一日のプロバスクラ
ブ創立 15 周年記念行事の幕を閉じました。

(市民会館で受付を担当した立場から)

一般入場者に伺った感想 佐々木 正

今日一日のスケジュールが滞りなく終了して、正面出入り口から出られた皆さんの一部に、ご来場のお礼を述べつつ、本日の感想を伺ったところ、短い言葉のやりとりであったため、具体的な感想を聞くところまでには至らなかったものの、ほとんどすべての方々からの「素晴らしい講演、演奏でした」といった短い言葉の中に、表情は違うにせよ感動した面持ちが込められていて、今回の15周年記念事業の成功を確信した次第です。なかでも 小学校高学年とおぼしき少年が「1部2部ともに素晴らしい内容でした。ありがとうございました」と明快に答えてくれた姿は大変印象的でした。

また、帰りがけに、多くの皆さんがCD売り場に殺到した様子から、天使のような掛屋剛志君の声に感動して、記憶を長くとどめようとしているお気持ちが伝わってきましたし、帰りに、的川先生の話で、「はやぶさ」に関わるいろいろなエピソードに大変感銘を受けたので、先生の本を求めたいが、会場には置いてないのかといった質問にも全体の象徴的な感触、雰囲気表されていたように思いました。

東京日野プロバスケットボールクラブ創立支援



当クラブ15周年記念事業の一環として、1年前前から東京日野プロバスケットボールクラブ創立支援活動を行ってきましたが、日野RC、飛火野RCおよび東京日野プロバスケットボールクラブのチャーターメンバーの方々のご努力下、クラブ設立にこぎつけられました。10月5日(火)高幡不動尊客殿で、東京日野プロバスケットボールクラブ創立式典並びに祝賀会が催され、当クラブからも、杉山会長、立川全日本プロバスケットボール協会副会長以下10名が参加、クラブ創立をお祝いしました。

当クラブからは、クラブ創立をお祝いして日野、飛火野両



RCクラブと一緒に日野プロバスケットボールクラブの旗をお贈りしました。立川会員が全日本プロバスケットボール協会副会長の立場で挨拶をされ、杉山会長が贈呈したプロバス旗についての説明や祝賀会での挨拶をされました。この催しには、多摩プロバスケットボールクラブからも出席され懇親の場を深められました。今後多摩地区での3つのプロバスケットボールクラブの交流に期待です。



投 稿

<プロバス いろいろ考>

ー全国協議会に参加してー 杉山友一



先月号で下山会員から、去る9月12日、北海道旭川市内のロワジュールホテルで、開かれた全日本プロバスケットボール協会総会(第4回)への参加報告がなされた。

その関連で少し書いてみたい。この全国協議会は2004年に発足し、二年に一度の割合で総会を持ち、今回で4回目ということである。総会のホストは、旭川プロバスケットボールクラブ(以下PCと表示)で、事前には大変周到な準備をされてきた。まず会場に向かうバスの車窓から目に飛び込んできたのは、大通りに面した旭川市役所の一角に立てられた、歓迎「第四回 全日本プロバスケットボール協会 総会」の大きな立看板である。え、これって何、どうなってるの、との驚きの思いが脳裏を過ぎった。(もっともその理由は後ほど明らかになるのだが)

ホストクラブの旭川PCは2005年の設立で、今年の創立5周年のお祝いに合わせて全国総会を招聘したということである。旭川PCの会員数は公表で100名を超えており、平均年齢は不明だ。会員の3割程度が女性会員である。総会後の懇親会で小生と同席した妙齢のご婦人(旭川PC会員)と名刺交換をしたら、表は焼き鳥専門店の店主で、裏面は旭川市の市議会議員の肩書きが付いていた。そもそも旭川PCの会員入会資格は著しく特徴的だ。旭川PCのコンセプトは「有為な人材を社会に生かす」と言ういわば「まち起こし」「街

づくり」に焦点が絞られている。したがって、旭川 PC の会員は、ロータリークラブやライオンズクラブ、ソロプチミスト、ゾンダ、中小企業家同友会などの OB 会員に加えて、現役会員そのままでの二重国籍者も多い。つまるところ、人材と思しき老若男女が楽しく参加してくれて、町の中により大きな人的ネットワークが出来ればそれで良いのだ。市長さんはさすがに会員ではないが PC のお仲間の一人なのである。さてこれを PC と呼んでいいかどうかは、PC の歴史的経緯からすれば異論があるところではある。

さて、現状日本の PC の数は 104 クラブ（協議会の資料）で、うち全国協議会への加盟済クラブは 55 クラブ、その中で今回の第 4 回総会への出席クラブは 25 クラブ、参加者数は 162 名であった。総会では所定の議事後、7 つのブロックから各 1 クラブが代表して活動報告がなされた。我が八王子も関東ブロックを代表して 5 分間ほど話をさせて頂いたのだが、PC の在り様はまさしくいろいろである。一般的な老人会に多少毛が生えた程度で会員数も少人数を良とするクラブから、旭川のように、100 人規模でいわば「まち起こし」のパワーグループまでと本当に幅が広い。プロバスの将来を考えた時にこれでよいかどうかはさておいても、何とも理念の統一が見られないことには疑問符がつく。因みに他団体はどうか、1905 年にアメリカシカゴに誕生したロータリークラブには、「奉仕の理想」という人生哲学が掲げられ、入会に際してはその綱領を了解しますという前提が必要になる。ロータリーの基本は＜I Serve＞で、クラブは、つまり奉仕を志す人々の集まりなのである。また 1917 年にロータリアンが分派して設立したライオンズクラブは、Liberty Intelligence Our Nation's Safety（自由を守り、知性を重んじ、我が国の安全を図る）の頭文字であり＜We Serve＞を標榜する。青年会議所（JC）もまた然りで、明るい豊かな社会の実現を理想として公益事業を企画運営する。個人の修練、社会への奉仕、世界との友情を基本姿勢におきリーダーシップトレーニングを経験する、というコンセプトで統一されている。プロバスにはこうした広域のビジョン（目指す理想）やコン

セプト（現実の概念）が明確に定められ公表されているわけではない。幸い、我が八王子 PC には、ありがたい姿として、「会員相互の親睦と研鑽、一隅を照らす地域社会への奉仕」という二本柱が創立の理念として掲げられている。

PC は本来ロータリーを絡めた歴史的な経緯（引退したロータリアン対策）の中から生まれた自然的産物である。このために今日に至ってプロバスというネーミングは共通でも中身は千差万別という現象を呈することとなっている。あるクラブの代表は総会での活動報告の中で、PC の存在価値は、自分にとってどう必要なのかということに尽きると発言していた。私はこうした発言を否定するものではないけれども少し狭量に過ぎはしないかの思いが強い。また、PC の在りようが多様であることは決して悪いわけではないが、共通すべき理念とクラブごとの個性とは分けて議論する必要があるかと思う。PC の新規設立予定の声があちこちから聞こえ、プロバス人口が次第に増えてきた近年、そろそろ一度これらの点を議論のテーブルに乗せてみる必要があるような気がしている。この議論を置き去りにしたままでは全国プロバス協議会の拠って立つ基盤が不明になってしまうのではないかと。全く余談になるが、今や日本の政権政党である民主党の最大の問題、欠点は綱領がないことだ、とよくいわれている。PC は政党ではないけれども、このままでは成立基盤が弱く、将来的に、クラブは生まれては消え出来ては消えるという現象を来す恐れがある。現に、全国で 6 番目設立の岡山県岡山 PC、23 番目設立の熊本県八代 PC、27 番目設立の岡山県児島 PC、57 番目設立の宮崎県新富 PC などが既に解散消滅している。（協議会資料）それから別な資金面からの問題もある。現在、全国協議会への加盟クラブ数は約 5 割だが、全国協議会の存在、意義を認めるのであれば、一クラブ 2,000 円の拠出金では事務費も賄えないという状態を今後どうして行くかは正に喫緊の課題と言えよう。また、当クラブのように協議会本部に役員を出向させていけば、旅費や宿泊費などの費用の大半は本人の個人負担でお願いするとしても、スポンサークラブとして関連経費の一部負担はそれ

なりに予算化する必要が生じてくる。ともあれ、みんなでプロバスの「過去、現在、未来」をもう一度考えてみようではありませんか、そんな機会の到来を期待している一人です。

「水盃（その3）」 山形 忠顯

4. 霊地吊問

『名誉回復証明書』を手にしたものの、父の墓参、遺骨収集はすぐには叶わなかった。埋葬場所について地図・見取図、墓参遺骨収集許可証等を露大使館に問い合わせても手懸りになる返答はなく、朔北会、陸士46期はもとより、関係機関団体の厚生省、外務省、全国強制抑留者協会、全国抑留者補償協議会に照会したが情報が得られない。私はJTB新潟支店海外旅行課長天田匡氏と、偶然にテレビ、新聞で知り得たウラジオストク在住山岡勲氏（元満蒙開拓青少年義勇軍兵士）の協力を頼りに、臆気な情報下であったが思い切ってウラジオ行きを決めた。

平成6年7月10日、新潟空港発、ウラジオ空港着。11日、ロシア平和財団沿海州支部フェドートフ副議長と山岡勲氏の案内で「現場」へ向かった。荒れた道路を辿りうっそうとした山林地へ入ったが、どこにも霊園らしきものは見当たらず、墓碑もない。此処らしいという岩壁の切り立った石ころだらけの荒地で慰霊の誠を尽くした。遺骨収集の仕様がなかったので、その場所の土石を密かに持ち帰り、母妹達に分配した。後日、母が逝去した平成16年8月、父の参謀肩章しか納められていない墓に、母の遺骨と共にこの土石を埋葬した。

5. 靖国神社御祭神合祀

私は父の命の靖国神社合祀については考え及ばずにいたが、成人した娘が同偕行文庫室で調査し、「昭和36年10月17日御祭神合祀、山形求馬命昭和21年7月1日 戦病死 ウォロシロフ収容所」の回答を頂いた。娘には、私の独身時代、少～青年期の母子家庭の様子、満州・朝鮮の生活、そして父のソ連軍拉致と以後の消息について詳しく聞かせたことはなかった。娘は平成4年以降の私の懊悩する姿から類推し、父の無残な最期を思いやり、その消息を極めて私を支えたいと考え

たのであろう。後生恐るべし、洵に嬉しく、ありがたい娘の所為であった。

昭和36年合祀と言えば、前野氏が『生ける屍』を著した時であり、私たちが「昭和21年7月1日戦病死」の『公報』を一応の拠り所として父の追善供養を営んでいた時期で、奇しき一致である。合祀は厚生省資料に基いて決定されるそうだが、私は天地感応し人気呼応したと悟している。また、10月17日（昭和36年）合祀の前日、10月16日（昭和21年）判決執行である。不可思議な人知の及ばぬ、大いなるものの業に畏敬するのみである。

6. まだあるか、消息情報

平成21年9月7日、朝日新聞朝刊記事、「モスクワのロシア国立軍事公文書館が、旧ソ連抑留者個人情報の新資料を朝日新聞社に公開。カード式で75万枚、56万人分個人ファイル検索の目録。」

同9月10日、同記事、「調査ファイルは、個人の基本データから容姿の特徴、病歴まで詳記。」

同12月16日、NHK総合テレビ「ニュースウォッチ9」、消息不明者7,000人分データがロシア政府より日本・厚生省へ届けられた。

平成22年5月24日、NHKラジオ第1「ニュース」、75万人のカードのうち、460人の消息が判明した。

以上については未確認で、近く厚生労働省へ行く所存である。（完）

老人クラブの生い立ちと現状 橋本晴重郎

八王子市老人クラブ連合会は現在188の老人クラブと13,000名の会員を擁し、東京都市部では最大の連合会であります。ちなみに第2位は府中市の96クラブ、3位立川市は92、町田市は85クラブであります。



老人クラブのルーツを平安時代の敬老組織「尚齒会」に求める説もありますが、仏教の相互扶助組織「講」をその源泉とする見方もあります。戦前では明治26年、福岡県福岡市で結成された「博多高砂会」、明治40年の「楽寿老人会」（京都府亀岡市）、大正14年「上田地区老人会」（熊本県小国町）など

が記録に残る老人クラブの先駆であります。戦後は千葉県八日市場市の「米倉老人クラブ」を皮切りに、昭和 38 年老人福祉法の制定により老人クラブへの助成制度が法制化されて急激に発展しました。終戦直後の混乱期には家族制度の廃止や誤った民主主義の導入などにより国のために働き続けた老人は邪魔者扱いされる風潮がありましたが、国民の祝日として「敬老の日」(9 月 15 日)が制定され、老後の生活に不安をかかえている老人や老後の問題に関心を持つ人々によって各地に老人クラブ結成の動きが生じ、昭和 29 年全国社会福祉協議会の調査によると全国の老人クラブ数は112クラブでありました。

八王子市内老人クラブの結成は昭和 33 年ころから始まり現在八老連傘下の最古クラブは昭和 34 年 4 月 15 日結成の「鑑水弥生会」であります。八王子市老人クラブ連合会は昭和 38 年 7 月 11 日、10 クラブで結成されました。その後昭和 44 年 77 クラブ、会員数 5,076 人と発展し、平成 9 年クラブ数 270 クラブ、会員数 20,155 人をピークとして以後クラブ数・会員数とも減少傾向にあります。

老人クラブ活動の 3 つの柱とされるのが健康増進・生きがい活動・社会奉仕活動です。

健康増進活動はグラウンドゴルフ・ペタンク・輪投げ・ゲートボールなどの軽スポーツや筋トレ・体力測定・生き生き体操など転倒・寝たきり防止運動を推進し、八王子は体力測定モデル地区に指定されています。また輪投げ競技では元八地区の「元一福寿会」が東京都大会で優勝(平成 20 年)・第三位(平成 22 年)など優秀な成績を上げています。

生きがい活動では趣味の作品展(書画・写真・手工芸品)・芸能まつり・会報での俳句短歌特集を組んで発表しています。平成 17・19 年度東京都芸能大会では打越町の「豊寿会」チームが連続優勝(優賞翌年は出場できない)して「厚生労働大臣賞」を獲得し、八老連のレベルの高さを示しました。

社会奉仕活動は各クラブが町会自治会と共同したり独自に道路公園清掃・登校時交通整理・学童登下校見守り・花壇づくり・慰問ボランティアなどをはじめ共同募金・歳末募金・災害募金活動などにも活動しています。

課題は会員の減少です。高齢者の多様化するニ

ズに沿った活動内容の検討や地域と密着したボランティア活動の推進など改善を図って会員増強に努めています。ご協力よろしくお願いいたします。

欧州勢の技術戦略の一例(通信関連)

馬場 征彦



私は、現役時代に通信機器業界に勤務していましたが、そこで経験した技術ヘゲモニー(または製品シェア競争)を巡る欧州勢の動きの一例を紹介します。

通信・通信機器業界の技術標準は、世界を結ぶという通信本来の使命実現のために 1865 年に設立された ITU (International Telecommunication Union=国際電気通信連合)において策定されてきました。多くの参加国による公的機関 (ITU、ISO など) で決定される技術標準は、最近優勢になりつつあるデファクト標準に対して、デジュール標準とも言われます。

周知の通り、デファクト標準はコンピュータ業界において米国企業が強力に推進してきたもので、ベンチャー企業等が新技術による製品を市場に先行投入して、シェア獲得に成功した暁には事実上の(=デファクト)標準製品の位置を獲得し、大きな利益を得ることになるというものです。パソコン・ソフトのマイクロソフト社、CPU チップのインテル社などがその典型例です。

通信・通信機器業界は長年 ITU によるデジュール標準に従ってきましたが、1980 年ごろに登場した自動車電話更には携帯電話という新技術によって、先進各国による技術及び製品開発競争は同時進行で激化し、各国の利害と思惑の対立のため ITU による標準策定が困難になりました。結局アナログ携帯電話では、日本仕様・米国仕様・欧州(以下 EU と略)仕様の並立になりました。

第 2 世代(デジタル携帯電話)も EU では 1992 年、日本では 1993 年に異なる仕様でサービスが開始されました。EU の GSM(当初 Groupe Speciale Mobile)は 1987 年に EU 内の標準として仕様化されましたが、特許や技術ノウハウ(以下 K/H と略)・運用 K/H などには EU 外には非公開として域外からの参入障壁も同時に作り上げました。EU 勢

は 1992 年のサービス開始と同時に「GSM MOU(=Memory Of Understanding)」グループを立ち上げ、積極的に諸外国（主に発展途上国、後進国）に GSM の採用を働きかけたのです。

技術 K/H や運用 K/H、更には融資の提供などによって多くの通信事業者の囲い込みに成功し、日本勢が海外に第 2 世代システムを展開しようとした 1994~5 年ごろには世界のマジョリティは GSM(名称も Global System for Mobile Communication に変更)の方向になっていたのです。

そして EU はこの勢いに乗って、世界統一標準を目指した第 3 世代（広帯域=ブロードバンド）携帯電話では、ネットワークは GSM に準拠することを ITU に提案し、デジュール標準化にも成功しました。この結果、GSM 系ネットワークが世界のマジョリティとなり、GSM 及びその発展系の携帯電話端末に至っては 2008 年には世界の約 82% のシェアを獲得するに至っています。

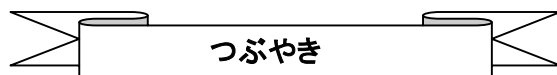
即ち EU 勢は、ITU での標準化が困難と見るや、EU 内部標準としてスタートさせてまずは EU 内、次に途上国などでデファクト標準に近い実績を作りあげ、次のステップでデジュール標準化に成功したのです。日本の関係者は、そのしたたかさに対抗する術もなかったというのが実情でした。

日本勢は技術が優秀であれば（事実、第 2 世代では電波利用効率などは日本仕様のほうが優れていました）世界に進出できると、単純に考えていたことは反省すべき点です。しかし例え欧州勢のような戦略があったとしても、現在の日本がおかれている歴史的、地政学的な立場から、近隣諸国との共同歩調をとることは困難であるということも事実であります。

携帯電話時代になって、残念ながら日本の通信機器メーカーは海外におけるプレゼンスを大きく後退させてしまいました。この点では、米国やカナダの有力メーカーも同様であります。

なお現在では、海外で利用可能な日本の携帯電話端末の多くは世界の大勢を占める GSM 系の仕様も併せて組み込んでいます。

以上は携帯電話における事例ですが、同様なことは他の分野においても、手を変え品を変えた形で進行しているのではないのでしょうか。（完）



●プロバスクラブは、人生練達の士の心が行き交う大きな交差点。三叉路、五差路、立体交差、お互いさまに元気を貰い元気をあげる。ともに重ねた年輪で Enjoy The Challenging. (TS)

●八百字を限度とし、一話にクラブの更なる成長を期待し、二話に人生の隠し味などと白ばくれ、三話に自己を省みるという「呟き」三種類を試みに提供してみたが、いずれの形が会報にふさわしいのかわからない。いずれ評価が定まるであろう。今回は六百字を限度とし…呟いて…みた。

知人の話の借用である。眼歯魔羅と言う言葉があり、男性の老化現象は往々にして目から始まる。歯眼魔羅の順ともいうが発音してみるといかにも下品であるからこれは採らない。

彼は目先が暗く夜は文字が読みにくく、時々ゴマ粒のような黒点や薄い膜がかかったようになる（紛れもない白内障である）上に右まぶたがやたらにけいれんするので弱っているという。

中国には…左眼跳財、右眼跳災…（左の瞼がぴくぴく動く時は福運が転がりこみ、右の瞼がピクつく時は災難が降りかかる）という俗諺があるので最近右眼をつぶり左まぶたを動かす訓練をしているが、先日、電車の中で訓練していたら前の座席のバアさんににらまれた。女性の自惚れは始末におえないと嘆くのである。(S)

編集後記：

編集を初めて担当。メールとワープロの経験だけで“なんとかなるだろう”と漕ぎ出してはみたものの、案の定座礁。更にはボイスレコーダの内容破壊もやってしまい、吉田委員長や武田委員に SOS を出して救助を仰ぐ始末。この経験により次は自力航海を試みる所存。

編集委員 馬場征彦